

■質問

計算条件の配置方法を、教えて下さい。

■回答

計算条件の配置方法は、下記によります。

[計算条件配置方法]

平面入力・Zn クリック → 基礎計算用データ → 基礎計算用データ 平面図表示  
 → 基礎符号右クリック → 杭計算条件 → 「杭計算条件」ダイアログ表示 →  
 計算条件番号選択 → OK ボタン → 基礎符号が消えて計算条件番号表示  
 (下図参照)

[計算条件種類]

杭計算条件番号 : 支持力算定、上限値、低減率、直接入力等を設定 (PR:n)

地盤データ番号 : 深度、N値、土質名、qu値、Eo値等を設定 (JR:n)

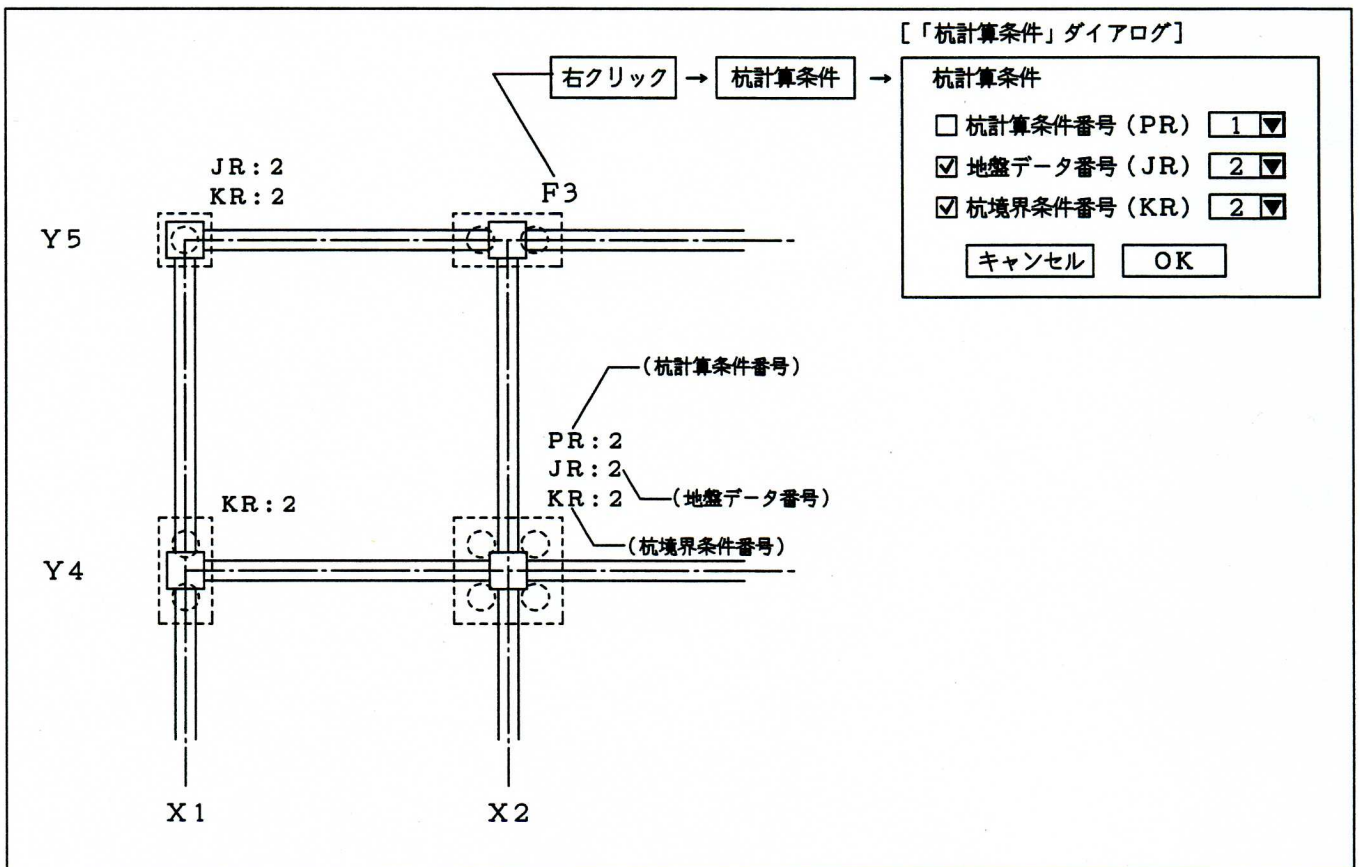
杭境界条件番号 : 杭頭固定度、杭先端支持条件を設定 (KR:n)

(次頁図参照)

※ 各条件番号は「1」がデフォルト値となっており、番号が2以上の場合、設定が必要となります。

(参考図)

[基礎計算用データ平面図]



(参考図)

[「杭計算条件」ダイアログ]

杭計算条件 (計算条件番号)

東京A(場所打ち) 基礎設計用曲げモーメント

PR: 1 (追加、修正、削除したい計算条件番号)

算定式  $R_a = 1/3 \{ 150 \cdot \alpha \cdot \beta \cdot avN \cdot Ap + (10/3 \cdot avNs \cdot Ls + 1/2 \cdot avqu \cdot Lc) \cdot \phi \} - Wp$

地盤データの制限

先端avN値算定用各深度N値 100

先端avN値 60

avNs算定用各深度N値 30

avqu算定用各深度qu値 200 (16) N値換算、 $N = qu / 12.5$

先端N値採用範囲

杭先端より上方 1 × 杭軸径 d

杭先端より下方 1 × 杭軸径 d

支持層への根入れ深さ Lo (mm) 0

先端地盤による係数  $\alpha$  1.0 [東京礫層1.0、細砂層0.85、その他0.75]

上限値の考慮  する  しない

長さ径比による低減値考慮  する  しない

中間支持層による低減率考慮  $\beta 1$  0

隣地低減率考慮  $\beta 2$  0

先端avN値 0  自動計算

杭支持力 (kN/本) 0  自動計算

[「地盤データ」ダイアログ]

地盤データ・杭境界条件 (計算条件番号)

地盤データ 杭境界条件

JR: 1 (追加、修正、削除したい計算条件番号)

※粘性土でqu値が入力されていない場合、 $qu = 12.5N$ として算出する。  
※E0値が入力されていない場合、 $E0 = 700N$ として算出する。  
※換算N値は先端N値算定用に使用する。

層厚 (m)	深度 (m)	N値	換算N値	土質名	qu値	E0値 (kN/m <sup>2</sup> )	Kh低減係数

設計GLとのレベル差 (mm) 0

設計水位深度 (mm) 0

地盤反力係数 kh 計算用  $\alpha$   80 (共通)  砂質土 80、粘性土 60

摩擦考慮開始深度 押込み検討時 (mm) 0

引抜き検討時 (mm) 0

[「杭境界条件」ダイアログ]

地盤データ・杭境界条件 (計算条件番号)

地盤データ 杭境界条件

KR: 1 (追加、修正、削除したい計算条件番号)

杭頭固定度 :  ピン  固定

杭先端支持条件 :  ピン  固定  自由